

事務局だより

1. 会員動向

6月1日現在会員数

湘南	県央	ベイサイド	多摩・田園	計
36	31	32	27	126名 (Eグループ会員：113名)

6月1日付入会者1名 児嶋 裕太氏 (県央)

7月1日付入会予定1名 太地 秀晴氏 (湘南)

2. 運営委員会報告

6月は、運営委員会は開催されませんでした。

3. 次回の運営委員会

日時：2022年7月24日(日) 10:00～12:00 オンライン開催

議長：高橋委員 書記：佐藤委員

特別寄稿

前回より連載を開始したじゃお県央、前田康行さんの特別寄稿は今回が2回目です。転居する際、相模原市から佐賀県まで、高速道路を使わずに移動した冒険談から相模原市を出発して愛知県瀬戸市に着くまでをお届けします。

不如帰道中記～その2

じゃお県央 元相模原市 前田 康行

道の駅で車中泊する～ 1日目(2022年4月30日) 相模原市→愛知県瀬戸市

いよいよ古里へ向け出発だー、と気分もハイテンションになるかと思いきや、どちらかというと30年間に渡って慣れ親しんだ神奈川県に別れを告げる寂しさが勝ってちょっとしんみり。その気持ちを振り払い、さて、まずどの方向に行くか決めねば。ナビは北西に向かって津久井から道志みちを指示。で、この道志みちですが、曲がりくねった山道の連続でかなりハード。またここはツーリングに人気のコースだそうでバイクがやたら多い。後ろから集団でバンバン迫ってきますからいささか焦ります。ただ、山中湖まで来ると、湖畔は瀟洒な別荘？が立ち並ぶヨー



ロッパ風の佇まい（行ったことないけど）で、対面には富士山がすぐ目の前にデーンと鎮座。ほっこり和みますう。

道志みちが終わってやっと平地に下りてきたなあと思っていると、ナビの指示で突然ひょこっと国道1号線に合流。それまでのくねくねした山道と違って、ほんとにこれ一般道かいなと疑うくらい整備された、高速道路並みの国道1号線をにわかに走り出すので、山道とのスピードのギャップにいささか戸惑います。なんせこの国道1号線、信号が少なく車線も複数でカーブも緩やか。当然皆さん飛ばすこと飛ばすこと、100km/hはざらです。とはいえ一応一般国道ですからね、法定速度は上限60km/hのはずだから100km/hはちょっと。私は70km/hぐらいで走行。これが巡航速度でしょうか。

ということで、国道1号線を順調に西へ。相模原を出る時は、今日は浜松あたりまでかなあなんて思っていたんですが、この調子だと名古屋超えて京都あたりまで行きそうな感じ。でも当初から日本海側を走ることに決めていたので、愛知県に入ったあたりで国道1号線を離れて福井県敦賀市を目指し、北



へ向かうことに。ただ、知らないところでの夜の運転は避けたいので、午後6時までに着けるところはないか、スマホで道の駅を探したら、愛知県瀬戸市の道の駅「瀬戸しなの（品野）」というのがありました。途中、スーパーで夕食、翌日の朝食、水などを確保して瀬戸市へ。着いた道の駅にはすでにキャンピングカーが4台停まってました。まあまあきれいな道の駅です。この道の駅の目の前に陶土工場が！さすが瀬戸物の町。それにしても、私の父親の里が佐賀県伊万里市で、有田焼関連の仕事をしている親戚が多いものですから、偶然とはいえ、わたしや焼き物に縁があるんやなあと感激。道の駅にはコンビニがありますが、スーパーで買ってきたお弁当で夕食、その後生まれて初めての車中泊。しかし小さな車のシートで寝るのはつらい！しかも、後ろに荷物を積んでいてシートがあまり倒せないで、普通に座った状態で寝なき

やいけないわけですが、この姿勢では体がきしむというかわばるんですね、特に肩から首筋あたりが。頭って結構重量があるので、座った姿勢で寝るとその重さがもろに首、肩にかかってくるんですね。起きてる時は体全体で頭を支えているので大丈夫なんですけどね。睡眠時に横になるというのは大事なことなんだと改めて実感。さらに、この季節はまだ夜寒い。ジャンパーの上からタオルケットにくるまりましたが、それでも震えがくるほど寒いっす。そんなこんなでなかなか寝付けないんですが、翌日を考えてとにかく寝なければと、震えつつ根性で7時間寝ました。さてこの1日目、朝、相模原を出たのが8時半でしたので、約10時間運転して走行距離350km。まあこんなものか。ところで、びっくりしたのは翌朝。なんと駐車場は満杯状態。フロントガラスや運転席、助手席を目隠した車中泊の車だらけです。夜遅く着いてたら停められなかったかも。GWだし。



若き日の訓練飛行

多摩・田園 落合 雅晴

今から 52 年前の 1969 年 7 月 20 日、人類が初めて月面に降り立った日、私は ANA に入社した同期生 10 名と大阪の訓練所に向かっていました。建築学しか勉強していない私が、パイロットの養成訓練に耐えられるのかと思われるところです。でも生来物事にこだわらない私には心配は無用でした。

訓練所では約 1 年半、基礎訓練が続きます。この段階で教官から単独飛行の許可がおりないとアメリカでの訓練課程に進めず、東京の本社に戻されてしまいます。

ある日、再試験の A 君のフライトが終わり、渋い顔の教官が降りてきました。フライト後の報告が終わると教官が A 君の肩をたたき“合格”と言いました。確かに“合格”と……。

それから約一カ月の準備期間を経てアメリカ西海岸のサンディエゴにある訓練所に移動しました。メキシコ国境近くの高台にあった小ざれいな宿舎は 1 部屋 2 名です。最初の晩に生まれて初めてホームシックにかかりました。

アメリカでの訓練で楽しかったのは単独飛行です。単発や双発の機体で片道約 3 時間 のフライトを行います。最初の頃、出発前に同期 3 人が集まって地図上で打ち合わせし、編隊を組んで目的地に行こうと計画しました。しかし、当時は経験不足のため、地図上のポジションは合っていても上空で同期の機体を見つけることができませんでした。乗っていたのが小型機で無線が頼りだったこともあります。

そんなある日、フライト中に無線が入り、午後から雲が広がるので訓練所に戻れとの指示。雲上を飛んでいましたが、西の方は雲が切れている部分があるとの事で機首を西に振ります。前方に同期が操縦する機体が見え、私の後方にも別の同期が続いているらしい。前方の機体が左旋回に入り機首を下げたので、私も追いかける様に機首を下げます。“デタ！”雲の下に出て一安心、いつもの見慣れた訓練基地が目の前に広がっていました。

(写真上：基礎訓練から 21 年後、私は教官として訓練生を育てる立場になりました。双発機パイパー・シャイアンの前で訓練生と、中央が筆者。)



こうして約 2 年間かかったアメリカでの訓練が終わりました。出発時は 8 名だった同期が 7 名となりましたが、皆無事に帰国しました。

帰国してから羽田から大阪へ向かう機内から見た富士山の美しいこと。つくづく日本に生まれて良かったと思いました。それから定年まで訓練の連続の生活を送りました。おかげさまで無事故無違反。支えてくれた妻、息子に感謝しています。

(写真左：ボーイング 767 の機長席に座る筆者)

我が家のペット「ロロちゃん」

多摩・田園 小俣 孝雄

平成9年4月1日、我が家のペット「ロロちゃん」が死んだ。60年は生きられると言われていたのに、20年いた、我が家のペットでは一番長いロロは大型の黄襟インコだ。

朝、雨戸をあけようと縁側に行った時いつもの声が聞こえないので、鳥籠をのぞいたら下に降りていつもやっているくちばしの手入れか？籠の棒に嘴をはさみ、そのままの姿勢で死んでいた。昨日もリンゴや小松菜など食べていたのに。

航海時代、中南米に行った時、腕時計と交換して持ってきたまだ幼鳥で襟の部分に黄色もなく、ほっそりとして可愛かった。その当時はワシントン条約もなく小動物の輸入規制もなかった。突然我が家に舞い込んできて、飼い方もわからず、餌は「ひまわりの種」を常食にした。若い頃は動きも活発で、いつも籠の中の止まり木を強い脚でつかまりクルクルと動き回っていた。家の中に放してもバタバタと大きな羽根を払って飛び回っていた。腕や肩に止まらせ、とても馴ついていて。言葉を覚えさせようと、何回も声掛けとテープレコーダーで試みたが、キョトンとして一向に覚えようとしなかった。

ある日掃除機をかけていたら、突然「ロロちゃん、おはよう、ロロちゃん!!!」と、はっきりとした言葉で喋った、感激だった。その声をテープレコーダーに録音しようとしたが、黙ってしまい、掃除を始めると掃除機の音に反応して、必ず言葉が出てくるその声がなんとも可愛らしい。いつの間にか襟に黄色が出てきて、成鳥になったようだ。下に降りて敷き詰めてある紙をボロボロにして「無精卵」を産んで、やっとメスだとわかった。

天気の良い日は、庭に止り木を出して、最初のうちは飛んで行かないように足首に細い鎖を付けておいたが、その心配はなく次からはそのまま止り木に移した。やがて嘴と脚を使って、地面まで降りてヨタヨタ散歩。通りがかりの人が、ものまねを要求するが無視、家の中で掃除機をかけると「ロロちゃん、おはよう、はとぼっぼ……」覚えていた言葉の連発、また狭い籠の中で、動くことなく羽の筋肉が退化してしまったのか、遂に飛べない鳥になってしまった。



食べる物も、人間の物が好きというか、与えてしまったので、リンゴ、バナナ、パンそしてうどん、そば、ケーキなど炭水化物が好物のようだ。我が家の食事中に、それが見えると、コロロ、コロロと、鳴き声で催促する。うどんを与えると、器用に片足で止り木につかまりもう一本の足でうどんをつかみ、口に持っていき下に落とすことなくスルスルと吞み込んでしまう早わざ、葉物も好きで、特にリンゴは得意のポーズ、足でつかみ芯まで食べる有様。

いつも皆の生活を見ていたのか、応答するような言葉が出てきた。子供たちに声掛けすると「アーアー」と応答返事があり、皆で笑うと一緒にになって声を出し、そのタイミングが見事で、いつも家族に笑いを提供していた。

熱帯育ちなので、冬の寒さに耐えられるか気になり、冬は毛布で籠を覆い保温に気を使った。年々日本の気候にも慣れてきたのか、冬の寒さもそれほど気にならなくなったが、反対に夏の暑さに弱くなり、冬でも天気の良い日には外に出してやると小さな餌箱の下に隠れて日差しを避ける有様、遊ぶことなく一日中寝ている。

60 年は生きられるというのは現地の自然環境の中でのことで、人間のエゴで捕らえられ、環境の違った日本に連れてこられ、狭い籠の中で飛ぶことなく、20 年間生きていたロロちゃんは幸福だったのだろうか？本来ならば自然環境の中で子育てし自由に羽ばたいていただろうと思うと何故か胸に傷むものが感じられた。

あの大きな鳥にも感情があることが良くわかる。エサがなくなれば、コロコロと鳴いて催促する、他人がそばに近づこうものならギャーギャー叫んで攻撃態勢。一時期小さなインコと仲良く同居していたのだが、そのインコが死んでしまったら、しばらくの間コロコロと鳴いて探すありさま、家族が外出から帰ってくると甘ったるい声でコロコロと鳴いて、籠の端に頭を付けて頭のマッサージを催促する「いつものロロちゃんとのスキンシップは指先で頭を搔いてあげ、ロロちゃんの嘴に指を入れて舌でなめさせる」。今思い出すと、あの頃の可愛かったことばかり。

戦後の疎開先を振り返って

ベイスайд 各務 清

私は昭和 13 年生まれの 83 歳、父は太平洋戦争でシンガポールに出征して、戦後昭和 22 年に戦地から復員してきた。昭和 27 年まで父の郷に私は疎開していて、岐阜の田舎生活に接してきた。今となつては懐かしい思い出であるが、田植え、稲刈り、蛍狩り、稲刈りの収穫等と都会では味わえない生活を見てきた。

小学校 5 年の時に、横浜に転校して以降、小中高と横浜に住み、大学 4 年間は京都で過ごした。京都の 4 年間の間に、もっと精力的に京都各地の歴史的建造物や美術品の見聞を広めておけば良かったと悔やんでいる。昨年、俳句の「四木会」に入会して、特に俳句に親しんでいる今、勉強不足を嘆いている。

齢 80 才を越えて体力の限界を感じている今、自然に親しんで、付き合っている皆様とともに、心を通える関係を大切にしたいと日頃より思っております。

コロナ渦中の自宅での私流の独酌の紹介

ベイスайд 風間 紘二

下戸の方には申し訳ありません。お酒好きな方だけへのメッセージです。

コロナのお陰で、友人との飲み会も極端に少なくなり、独酌をなんとか工夫して楽しく、優雅？に飲みたいと思ってこんな工夫をしています。

多少なりとも、お酒大好きな同好の士に参考になればと筆を取りました。

1. ほぼ毎晩の晩酌では、食卓の上に、日本酒（1升瓶）、焼酎（1升瓶）、ワインボトル瓶を並べます。
日本酒は通販のベルーナで吟醸酒一升瓶五本セットを購入してその日の気分で好きなを選びます。
焼酎は、黒霧島をダースで購入しています。
ワインも通販でボルドーの赤をセットで購入しています。
その日の気分で何にするかを逡巡しながら決めています。
2. 酒器にもこだわります。
冷酒用には、美濃焼の舟形をしたダーク色の酒器を使い、燗酒には、温バー（ヌクバー）という美濃焼の燗酒専用の酒器を使います。信楽焼のたぬきが下げている器に似たもので、お湯を入れて温める方式で、これも通販で見つけました。
3分でちょうど良い熱燗、2分でぬる燗、4分で熱燗と加減できます。
お猪口は美濃焼と墨田区の切子工芸館で見つけたブルーの切子グラスを愛用して、その日の気分で使い分けています。
焼酎は1合用の茶色の瀬戸焼きです。
ワイン用には、ベネチアで見つけたペアーグラスを使用しています。
偶には、お酒が得意で無いパートナーと他愛の無い会話をしながら楽しんでいます。
3. コースターには、上野でエジプト展覧会のお土産コーナーで見つけた、金メッキらしきコースターを敷いて雰囲気を楽しんでいます。

こんなことで、一人静かに味わいながら飲んでいきます。

尚、お酒が美味しく飲めるのは、後何年かなーと呻吟しつつ、飲める間は楽しく飲まなくちゃーと休肝日も設けながら静かに味わっております。

丹沢湖バーベキュー

例年、5月の末に行っている丹沢湖ロッジで恒例のバーベキュー（BBQ）を参加者12名で、6月4日（土）におこないました。従来の湖を一周するサイクリングは、希望者が少なく中止としました。5月の連休明けからのコロナ感染の再拡大を心配していましたが、特にその気配もないようなので、恐る恐るという感じでの実行でした。最近の少人数でのキャンプ人気を反映してか、ロッジのバンガローには家族連れの宿泊客が金曜の夜から3組ほどいました。感染が安心といえるほど収束していないので、団体の客はまだ少ないとのことでした。快晴と適度な気温、また周りはすべて新緑からは少し濃い緑に代わっていましたが、丹沢湖水の緑が溶け合って景色も素晴らしく、満点の日和でした。湖水の周りの散策を楽しんだ後、焼き鳥、牛肉、野菜の網焼きをお酒と共に楽しみました。じゃお県央でも、最近是对面で話をする機会がなかったので、爽快なオープンスペースでの談話に花が咲きました。コロナ禍や戦争ニュースばかりの鬱々とした毎日からひと時解放され、英気が養われたのではないかと考えております。



（県央 今村 義宏 記・石川 武司 写真）

ボウリング

6月21日ラウンドワン町田店に10:30集合し、参加者3名、少数精鋭での実施となりました。

小田急町田駅西口改札で待っていると「以上旦那」から場所が分からないと着電があり、何処に居るか尋ねると、マックの前と言う。町田で有名な丸マックだ。方向としては逆だが、スマホのナビに従って歩いたのにと。ナビも今一つ使い勝手が悪いと思う。早く改善してクレ。合流後2人でラウンドワンの前で待つ事しばし。もう一人は「魚釣社長」携帯電話を持たない人なので、迷うと心配、それで「以上旦那」が探しに行くと、直ぐに西友の前で発見めでたく合流が完了しました。

ラウンドワンの3階へ行き、10:15にチェックイン。チェックインは銀行のATMの様な機械で行うシステムで、11:00に予約していたのですが予約の15分前からしかできなく、そこで予約なしの方から入り、人数、会員カードのQRコードの読み取り、各人の年齢65才以上、マイシューズか貸靴かと進み、料金は、朝割り投げ放題で会員1,540円、一般1,740円、貸靴390円。クレジットカードで支払いを終えると「6階21レーン」の入退場チケット等のシートが数枚出て来ました。靴のロッカーがサイズ別に並んでいます。自分のサイズのロッカーのボタンを押すと靴がストンと出て来ました。それを持って6階へ向かいました。

6階でボールを選択。21レーンの座席前にモニターが3台並んでいる。モニターのタッチパネルでスタートボタンを押す。スコア表の名前がA、B、Cとなっているので、タッチパネルで各自の名前に変える。ひらがなで表示される。その操作がなかなか旨く行かず、スタッフに助けられたが苦戦したのだった。練習投球は有りませんとの事なので、投球開始。健康ボウリングを謳い、運動するのを第一の目標にどんどん投げ続けました。隣はカップルで5ゲーム投げて帰って行った。左隣は年配の女性一人でマイボールを使って投げていた。スピードはないがスペアを確実に取っていて旨い。年配の女性の次に来たのは、がたいの良い30代と思われる男性3人組でパワー溢れる投げ振りであった。奥の方の後期高齢者の女性グループは本当に元気で、6ゲームをやり、更にやり続け老婆の休日を謳歌していました。

誰がこの繁栄をもたらせたのか、ボウリング場で考えた。4ゲームの途中で「以上旦那」の足に非常事態が発生、ストレッチャーで北里大学病院へ搬送と思ったが、本人の固い辞退により止めました。「魚釣社長」は何時も卓球をやっているので大丈夫と言い、「以上旦那」は畑をやって、鋤を振っているの腕は痛くないとおっしゃいます。本日は4ゲームを終えた所で終了。モニターの終了ボタンを押し、3階のフロントに戻り、靴を返して、スコアカードを貰いました。

恒例の反省会は西友の隣のビルの2階のキリンシティへ行きました。私がこちらへ引っ越したのは昭和の最後の年でしたが、その頃は、このビルは木造で八百屋でした。ボウリング場の場所は大正堂という家具屋さんで、今の町田市役所もフジサイクルという自転車メーカーでした。時代の変遷の速さを痛感します。12:30ごろでしたが、店は結構賑わっていました。スタッフにランチかビールか聞かれ、ビールと答える。注文はテーブルの上のタッチパネルでと、操作の仕方などの説明を聞く。私には、紙のメニューの方が何程か分かり易く、時代遅れの人感が強く滲みました。キリン一番搾り560円、クラフトビール豊潤690円、熟成メークインのポテトフライ560円、で喉を潤し、話題は県央25周年記念行事で盛り上がり、品良く終わって無事帰途に着きました。慣れないタッチパネルに難儀した一日であります。

(県央 別所 洋一 記)

じゃお多摩・田園

オープン撮影会 アジサイ寺 浄慶寺に～グラファーズ撮影会～

6月の撮影会は、グラファーズ・メンバー以外の方も参加したオープン撮影会として実施されました。多摩・田園、湘南から各1名、合計2名のオープン参加者と、グラファーズ・メンバー6名の、計8名が柿生駅に集合です。

駅から歩くこと10数分「花の名所100選」に選ばれている「アジサイ寺 浄慶寺」に到着です。我々を迎えてくれたのは、昭和42年(1967年)ごろから植えられた千本を超える紫陽花と、境内に住み込んでいる表情豊かな羅漢さん(石像)群です。スマホ、パソコン、デジカメを操作する羅漢さん、食べ物を食べる羅漢さん、カラオケで歌ったり、将棋をしたり、お酒をのんだりの羅漢さんなどなど思わず微笑んでしまいます。



羅漢さんは平成元年(1989年)から境内に住み込むようになったそうで、毎年新しい羅漢さんが仲間入りしているようです。お参りに見えた信者やアジサイを見に来られたお客さんを楽しませてくれています。

冒頭幹事から浄慶寺に関する情報が紹介された後、いざ撮影開始です。境内の山腹には秋葉神社があり、秋葉神社から境内全景を狙ったり、下から秋葉神社をいれて山腹の紫陽花を狙ったり、アングルを変えての撮影です。満開のアジサイも下から、上から、引いたり、アップにしたり、また羅漢さんとからめたり色々と苦労、工夫しての撮影です。アジサイと羅漢さん相手に格闘すること約1時間、撮影終了です。

後は待ちに待った“反省会”です。オープン参加者とともに駅に戻り某ラーメン店「熱烈中華食堂日高屋」に突入です。

反省すること、反省すること約2時間、テーブルの上にジョッキと皿の山を築いたところでお開きです。オープン参加者の方も反省会を、いや撮影会を楽しんで頂けたと思います。今後とも機会があったらオープン撮影会を開催したいと考えています。その節は、多数のご参加をお待ちしています。

(湘南 村田 和彦 記・写真)

「ランチ&カラオケ」再開

2019年6月5日（水）に第1回目が開催され、2020年2月を最後にコロナ禍のため中断していた「ランチ&カラオケ」が6月8日（水）2年4ヶ月ぶりに開催されました。このイベントは毎月初旬に10時から「町田市民フォーラム4階活動室」で「定例会」が行われた後に、有志で近くのスーパーで昼食用の食材やアルコール類、つまみなどを買い、「カラオケマック2号店」で行われていました。しかし、コロナ禍で町田市民フォーラムが使用できなくなり、その後、定例会はオンラインで行われてきましたが、このイベントは開催できず、特に、カラオケはコロナの感染リスクが高く、再開時期は慎重に検討されてきました。最近になり、3回目のワクチン接種が進み、新規感染者の数も大幅に減って来て、感染リスクが低下してきたのを機に再開を決断しました。

今回は8名が参加しました。定例会が11時20分頃に終了した後、飯田さん、千葉さん、筆者の3名は近くのスーパーへ行き、ビール、日本酒、ワインのアルコール類と寿司、サンドイッチ、鶏の唐揚げ、お新香、サラダ、取り皿、紙コップなどの食材を買い、竹内さんなど5名はカラオケ店に直行し申し込みをしてもらいました。3年前と同様、フリーソフトドリンク付き3時間で500円というコースがあり、参加者が多かったため、その店で最も広い部屋を申し込みました。そのため、参加者は部屋の中を自由に動き回ることができ、非常に快適でした。L字形の座席が左右にあり4名ずつ分かれて座りましたが、その前にはテーブルを挟んで丸椅子が置かれ、そこに自由に異動して話ができ、正面の壁には2つの大きなスクリーンが設置されていてそれを見ながら歌うことができ、音響も素晴らしかったです。



まず、買ってきた食材で腹ごしらえや雑談をしてから、12時40分頃から、カラオケを開始しました。皮切りに筆者が伊藤久男の「イヨマンテの夜」を歌い、その後各人が順にリクエスト曲を入れて歌い続けました。歌は強制ではなく歌いたい人が歌うということで進めました。歌いたい人ばかりではなく、一緒にアルコールを飲みながら話をしたいということで参加された方もいます。歌のジャンルは様々で、私が知らない新しい歌を歌われる方もおられました。途中2名の方が帰られましたが、終了時刻が近づき、費用を割り勘にして解散しました。1人当たり1600円で3時間楽しむことができました。

コロナ禍のため自宅で過ごすことが多く、飲み会の機会も少なくなっていた折に、歌を歌ったり、おしゃべりをしてストレスを少しは解消出来たのではないかと思います。今後もコロナ禍がひどくならない限りこのイベントは続けていきたいと思いますので、歌いたくない方も含めて奮ってご参加ください。

（多摩・田園 石井 武則 記・写真）

ランチを再開～大人の遊び場～

多摩・田園の「大人の遊び場」は2022年1月より現在の土地に移転しました。以来、機材や道具の整備、農地整備、作物の植え付けと進めてきました。6月16日、いよいよ野外での調理によるランチを再開しました。

これまで進めてきた整備には、機材倉庫の設置・機材の整理・耕うん機収納庫の整備・周辺の草刈り・原木椎茸の本伏せなどがあります。また、狭いながらも農地では、カボチャ、サツマイモ、ジャガイモ、枝豆、ミニトマト、キュウリが育っています。今日はジャガイモを収穫しました。

この日の参加者は9名でした。梅雨の最中の曇り空で、やや蒸し暑い中、雨に降られることもなく、キュウリとミニトマトの剪定、摘芯、誘引、追肥をこなし、害虫の駆除や周辺の草刈りも、午前中に終わることができました。

調理は、まだ、準備が完全ではないので、まずは屋外料理の定番、カレーライスから始めました。材料は前日に買い揃え、収穫したばかりのジャガイモも入れました。コロナ対策もあって、およそ1年半は昼食を作らずに来ましたので、包丁が切れなくなっていたり、鍋が汚れていたりしました。

鍋を洗っている途中で井戸水が出なくなるというハプニングがありましたが、高橋さんが機転を利かせて自宅から持参してくれた10リットルの水道水が大いに役立ちました。



メンバーが揃い、育った作物を見て、あれこれ話しながらの昼食は最高です。ウィズコロナでの活動は、コロナ前のようにはいきませんが、動き出したことに感謝です。

やや多めに作ったこともあって、カレールーがちょっと余りました。SDGsが叫ばれる中（そんなに大層なものでもないけど……）、捨てるのはもったいないので、鍋を洗う約束で鍋ごと持ち帰りました。冷凍保存も考えていましたが、帰宅するなり家内から「夕食はカレーにしよう」との一言。足りなくなったジャガイモと玉ねぎを足して夕食用にリフォームしました。こうして二食続けてカレーを食べることになりました。（笑）

写真は成長途中の枝豆を前にしてカレーを食べるメンバーと、本日の調理に奮闘した飯田さんです。

（多摩・田園 竹内 純一 記・写真）



最新の町田市バイオエネルギーセンター見学～仲間と街歩き～

町田市バイオエネルギーセンターは、新しく完成したごみ焼却施設、及び不燃粗大ごみ処理施設です。老朽化した施設の更新で、計画から約 10 年を経て 2022 年 1 月より稼働を開始しました。4 月 1 日より見学が始まりましたので、町田市のごみ処理を知る機会になればと「仲間と街歩き」の一環として見学してきました。

6 月 23 日、折からの梅雨空で蒸し暑い中、集まった参加者は多摩・田園 12 名、県央 5 名、湘南 1 名の 18 名。申し込みは 20 名でしたので、関心の高さがうかがえます。

最初に見た感想は「うわぁ 大きい！」でした。町田市民は前身の「リサイクル文化センター」を知っています。首をぐるっと回さないと全体が見えない巨大な施設が目の前に横たわっていました。ワクワクしながら施設に入ります。新しいので、どこもピカピカ。ごみ処理施設特有の臭いを感じることもありません。

見学は町田市のごみ行政についての案内から始まり、DVD による施設の説明を見て、工場見学へと続きます。工場内には見学窓が用意されていて、安全に施設や設備を見ることができます。理解を助ける展示や、ごみ処理に関するクイズなども用意されていました。小学生向けの展示は、学校の見学に力を入れている証拠ですね。SDGs が叫ばれる時代ですから、子供の頃からの教育も大切です。

見学のハイライトは首都圏で初めて設置された「バイオガス化施設」と高効率の「熱回収施設」です。バイオガス化施設とは、生ごみを発酵させ、取り出したメタンガスを燃焼させて発電し、さらに燃焼時の熱も有効利用する仕組みです。ごみを有効利用することで二酸化炭素の排出削減効果が得られるんだそうです。

ごみ焼却施設も新しくなり、高効率の燃焼が可能になったほか、燃焼で生まれた熱を利用して蒸気を作り発電に生かしています。さらに、蒸気の一部は近くの市立室内プールやプールに併設された「健康増進温浴施設」（早い話、公営のスーパー銭湯ですね）でも利用されているそうです。

今回は 3 名の職員の方々から、丁寧な説明を受けることができました。参加者からは、技術的なことから、環境への負荷、二酸化炭素排出、発電効率、コロナの影響、人口減少への対処などなど、幅広い質問がでました。おかげで予定時間を 1 時間近くオーバーしましたが、丁寧な対応に感謝しています。

見学を通じて、ごみの減量がごみ処理への負荷を下げるとの説明を受けました。最近、ガスボンベやリチウムイオン電池が一般ごみと一緒に廃棄されたことが原因で、ごみ収集車やごみ焼却施設の火災に結び付いた事例があったそうです。危険物の正しい分別が必要ですね。

（多摩・田園 竹内 純一 記・写真）

